

スズ再資源化に参入

高崎のエコ・マテリアル

新システム、10月稼働

国内シェア5割目指す

金属スクラップを化学処理し、再資源化しているエコ・マテリアル（高崎市中室田町、中沢孝社長）は、処理過程で派生するスズを高純度のインゴット（铸造した塊）にして、産業用にリサイクルするシステムを導入、10月に稼働を始める。国内最高レベルの純度に仕上げ、3年後には国内リサイクル市場のシェア5割獲得を目指す。新興国による資源需要が増え、将来的な価格上昇が見込まれる中、技術力を生かして国内資源の有効活用を進める。

同社は、半導体メーカーの生産過程で生じる合金のかすの電気分解を業務の一つにして、合金部分を再利用するのが主目的だが、メッキに使われていたスズが陰極に付着するため、この再利用に乗り出した。

00度に熱し、型枠に流し込んでインゴットにする。処理前は1キロ2000円のスズが、純度99・99%のインゴットにすることで10倍の2千円前後で電子機器メーカーに卸すことができる。

「日本にとって大事な資源が国外に流出してはもったいない。リサイクルをして有効に使ってもらいたい」と設備増強を計画。県の本年度の新技术・新製品開発推進補助金に採用されたことから、設備投資に踏み切った。

この合金の処理はこれまでごく少量だったが、スズのリサイクルで収益性が高まることから、今後は業務の1人。同社は2008年4月設立、同秋に操業開始。レアメタルを中心に15種類の金属の再資源化を手掛けている。2010年3月期の売上高は2800万円だが、今期は上半期だけで3千万円に達する見込み。従業員は8人。

新たに導入する設備では、スズを破碎、湯で洗浄し、圧力をかけて固めた後、かまで8

電解槽（右奥）に付着したスズを手に「国内の資源を有効活用したい」と語る中沢社長

度だったため価格は千円程度。海外の業者へ流れてしまうケースもあった。

「日本にとって大事な資源が国外に流出してはもったいない。リサイクルをして有効に使ってもらいたい」と設備増強を計画。県の本年度の新技术・新製品開発推進補助金に採用されたことから、設備投資に踏み切った。



電解槽（右奥）に付着したスズを手に「国内の資源を有効活用したい」と語る中沢社長

2010年8月31日
上毛新聞